



撮影：カメラのかじスタジオ

老朽化によりタイル剥落の恐れがあった市役所本庁舎の外壁が金属製のパネルへと変わり、デザインも刷新。安全性と耐久性を備え、未来へつなぐ新たなデザインへと生まれ変わりました。本庁舎外壁改修工事の経緯や内容について紹介します。

☎ 防災強靱化室防災強靱化係 (☎35-0962)

●安全・安心を最優先に合理性を追及した設計に



本庁舎は、老朽化により大地震発生時に外壁タイルが剥落する危険性が指摘されていました。そこで、庁舎の建て替えを含めて検討を行ったところ、鉄筋コンクリートの柱や梁などの構造体には問題がないことが確認されたため、現在の庁舎を継続して使用し、外壁のみ改修する方針としました。

外壁工事では、「安全性・耐久性・維持管理」を重視した設計としました。この3点を優先するため、既存の外壁タイルと下地のほぼ全面を撤去後、はがね製の下地を壁や柱に固定し、金属製のパネルを取り付ける工法を採用しています。また、耐震性の向上にもつながる建物の軽量化を実現しました。金属製パネルは従来のレンガ調タイルに比べ、およそ6分の1の軽さで、建物本体に係る重量の軽減に寄与しています。あわせて、維持管理の負担を軽減する工法や、汚れや腐食を長期間防ぐ塗装を採用するなど、合理性を重視した改修としました。

生まれ変わった市役所本庁舎 外壁工事が完成しました



庁舎の変遷～1971年～

現在の本庁舎敷地に初めて役場庁舎が移転されたのは今から54年前となる1971年。現庁舎敷地にあった小笠農業高校の校舎を役場庁舎として切り替え、コの字型に並ぶ各教室を各課に割り当てて使用していました。

History 1